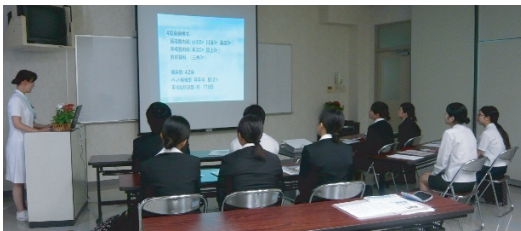


インターンシップ（職場体験）を実施して



8月18～19日の2日間、来春卒業予定の看護学生9名が参加してインターンシップを実施しました。今まで施設見学として8月に実施していましたが、病棟での看護を実際に体験したいとの要望があり、今年度から行ったものです。

1日目には、看護部長から病院の概要や勤務体制、教育体制や看護界のトピックスなどの講和、各師長による部署紹介、参加学生の看護学校出

身の先輩看護師との交流会を行い、2日目に、学生の希望部署で実際に看護体験をしてもらいました。病棟での看護体験を行ったのは5名の学生でしたが、職員の雰囲気や看護への取り組みが感じられよかったとの意見が多く聞かれました。

アンケートにもたくさんの意見が書かれていましたので、一部をご紹介します。

*職員の方々が皆さんとても仲が良く、協力しながら働かれている体制にととても好感を持ちました。

*看護師さんの患者に対する対応がとても温かく、優しく、私たちにも親切に接して下さり、とてもいい印象を受けました。

*急性期だと少し身構えてしまっていた部分もありましたが、周囲のサポートもしっかりしていて、優しく指導して下さることもあり、安心して働ける病院だと思いました。



また、「就職を決める際に何を重視するか」という質問には、67%の学生が、「給与・ボーナス」「人間関係」「親元に近い」を選択し、さらに「研修・教育体制」については全員が重視していると回答しています。インターンシップに参加した理由にも、「新人看護師研修が充実していると聞いたから」と書かれています。ローテーションによる研修を始めて3年目になりますが、看護学生からは魅力的な取り組みとなっています。

インターンシップに参加した5名の学生が8月22日の採用試験を受験してくれました。来年4月入職する看護師から「この病院に就職してよかった！」と思ってもらえるように研修内容をさらに充実させていきたいですね。(山口)

鹿児島県がん看護における質の高い 看護師育成事業実務研修に参加して

3階東病棟：福永 香

6月から2ヶ月間、鹿児島県主催のがん看護研修を受講しました。講義では、各診療科におけるがんの発生機序や治療方法、がん化学療法、緩和ケアやがん患者の心理過程とその支援、意志決定やインフォームドコンセントにおける看護師の役割、疼痛マネジメントについて学びました。癌性疼痛は、トータルペインとして捉え、疼痛をきちんと評価し対応することで、9割は抑えることができると言われています。患者さんの疼痛をどれだけ痛いのかではなく、なぜ痛むのか、痛みの中にはどんな問題があるのかをきちんと評価することで、私たち看護師が援助できることがわってきます。

研修を終えて1ヶ月が経ちましたが、現在、私は病棟内のがん患者さんを定期的にラウンドし、少しでも思いを表出していただけるよう関わりを持つようになっています。また、オピオイド導入されている患者さんの疼痛評価やケアの内容を病棟スタッフと一緒にカンファレンスしています。今後は病棟スタッフ等向けに、化学療法や疼痛マネジメントについて勉強会を企画中です。今回の学びを病棟スタッフへ伝え、がん患者さんのケアに活かせるよう活動していきたいと思っています。

オススメの本



絵でみるターミナルケア

人生の最期を生き抜く人へのかぎりない援助

監修：佐藤禮子

発行所：学研

教育委員会 研修レポート



STARTING

8/26(水)

SP(模擬患者)をとおして看護の実際を学ぶ

今回は、コミュニケーション技術を向上させ、看護者としての対応方法を学ぶ目的で、一般市民の方に患者役をしていただき、2つの事例に対して患者対応の実践を考えました。模擬患者との会話で、そのとき患者が感じたことを率直に教えてもらうことで、言葉遣い・説明の仕方・気持ちの理解・非言語的コミュニケーションについて振り返り、看護者として必要なこと、コミュニケーション技術について考えることができました。

皆しっかりとした考えで対応できており、入職当初とすると成長した姿がうかがえました。レポートの中には「患者と接する時に、どんなことを意識しながらコミュニケーションをはかっているか、第三者からはどんな風に見えているのかを知ることができ、自分の良いところ、直すべきところがわかりました。今後にかかしていきたい」との感想が見られました。これからも患者の気持ちをくみ、対応できる素敵な看護師に成長していってくれることを期待しています。(三宅)

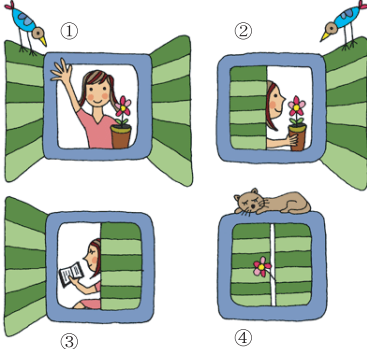


WALKING

6/26(金) 講師:下青木主任

メンバーシップを理解し行動できる

ジョハリの窓



- ①他人から見えて、自分も気がついている自分
隠しようがない自分
- ②他人からは見えないで、自分からは見える自分
隠しやすい部分の自分
- ③他人からは見えていても自分は気がついていない自分
指摘されると「うそー」って言いたくなる自分
- ④他人も自分も気がついていない自分
無意識の自分

まず、固定チームナースングにおけるメンバーの役割・業務について質問をしながら理解度を確認することで、日頃行っている自分の仕事について見直すことができました。

次に自分の病棟目標を達成するために効果的なメンバーの役割がとれることを目的とし、「自分の病棟紹介」というタイトルで発表してもらいました。発表することで、他病棟での取り組みがどのような行動を行っているのか、メンバーの役割が分かりました。最後に、自己理解を深めるために、「ジョハリの窓(人同士が円滑なコミュニケーションを進めるために考案されたコミュニケーション分析のモデル)」を行いました。最初は皆戸惑いながらも理解できると積極的に意見交換ができていました。「開いた窓」を広げ、気づかずにいた自分の新たな能力や才能を発見し、ステップアップして、さらにメンバーシップを発揮してほしいと思います!(牧山)

STEP

アサーション・コーチング 6/11(木) 講師:松元主任

講義の中で、4グループに分かれてグループを行いました。例題2つ行いましたが、そのうちの1つを紹介します。

例題1:友人との間でテスト前にノートを貸してほしいと頼まれたが、Aさんは帰ってからその科目の勉強をしようと思っていました。あなたならどう対処しますか?

例題1ではドラえもんキャラクターに置き換えて、攻撃的な自己表現をするのはジャイアン、非主観的な自己表現はのび太君、アサーティブな自己表現はしずかちゃんであることが説明され、自分がどのタイプでどのような対応をするのか考えてもらい発表してもらいました。性格が違う人たちと働く中で、自分と相手のことを踏まえた上での関係づくりが必要であることを考えられたようです。

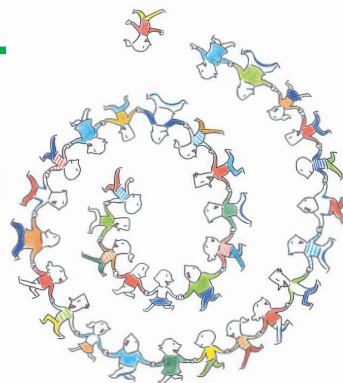
そのほかにも、自分の病棟の所属部署の先輩・後輩スタッフの自慢できることをあげてもらいました。各部署たくさん自慢するところがあるようです。

今回の学びを活かして、今後もアサーティブな自己表現・コーチングスキルを活用し、スタッフや患者と良い関係に関われるよう頑張りましょう。(三宅)

RUNNING

7/2(木) 講師:MSW・村山主任, 薬剤科・福岡科長, 医事課・吉永係長 関連部署の業務を理解し連携を図ることができる

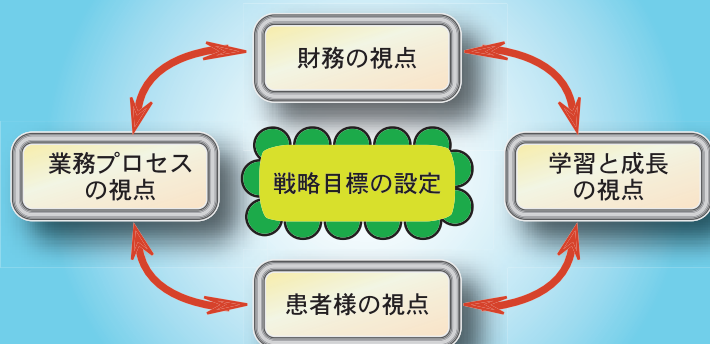
今回はそれぞれの部署(MSW・医事・薬剤科)に講師を依頼し、役割や業務内容の説明を詳しく受けることができました。研修生は日頃の看護業務の中で見えにくかった関連部署の動きを理解することができたのではないのでしょうか。それぞれの部署が独立しているのではなく、手をつないでいるように輪になって患者さんにかかわって行けたらいいなとあらためて感じることができる研修となりました。(岩下)



JUMP

BSC活用方法について 7/30(木) 講師:濱田師長

4つの視点は互いに連動してバランスをとっている



BSC(バランストスコアカード)とは、戦略ビジョンを4つの視点に分類し、企業の業務をUPするための「事業計画」として活用されています。医療機関では、BSCは病院の方向性を明確にし、全職員が病院の目指す目標を理解して業務にあたることができるツールと言えます。

今回の研修では、SWOT分析と4つの視点についてグループワークをしました。

BSC、SWOT分析を用いることで、各病棟の問題が明確になり、目標・行動計画が立てやすい、小集団でも活用できるなどの感想が聞かれました。(若松)

5/7 放送

「人工呼吸療法に必要な基礎知識」

患者にとって人工呼吸療法は、メリットとデメリットの両方を兼ね備えており、人工呼吸モードが、患者の呼吸にあっているなければ、患者のストレスは増します。安全な人工呼吸管理は、呼吸器自体の管理と患者の呼吸状態を評価しながら行わなければなりません。①呼吸生理の基礎知識 ②人工呼吸療法の基礎知識 ③合併症予防 ④安全管理 ⑤早期人工呼吸離脱などについて詳しく説明がされており、とても分かりやすい内容でした。(松元)

4/22放送

「エビデンスに基づいた感染管理の知識とスキル」

このDVDは 1.結核の話 2.感染の知識 3.スタンダードプリコーション 4.機材の再処理、洗浄消毒滅菌について語られています。感染(結核・MRSA・尿路感染など)は、どこの病棟にも起こりうることであり、その際に適切な対処をしなければ院内感染まで発展する可能性もあります。手指衛生・PPEの重要性は研修もあり理解されていると思

いますが、再確認のためにみていただければと思います。また、感染に興味のある人は是非みてください。(篠原)

4/8放送

「糖尿病とフットケア」

糖尿病の患者が足にトラブル(水虫・魚の目・たこなど)を抱えている場合、糖尿病の教育・指導を行う際に、知識として知っておきたい内容でした。

ポイントは

- ①糖尿病は し…神経障害
め…目の障害
じ…腎臓障害

②合併症で最も重要なのは「予防教育」です。(辻本)

院内S-QUE研修 1000'Eナース コメント

5/20 放送

「人工呼吸器装着患者の看護」

人工呼吸器に関しての知識、技術、機器の取扱いの未熟さが問題となっています。

現場では、人工呼吸管理者に必要な呼吸整理、呼吸アセスメント、安全で安楽な呼吸器ケア、合併症予防が大事です。

- ・吸引は痰だけでなく肺内ガスも吸引している
- ・吸引によって気道攣縮を起こす可能性もある
- ・吸引を行う実施者にはきちんとした技術、解剖生理、その患者の病態の把握ができていなければならないという内容でした。(下青木)

私の自慢

うちのペットはいったい何匹???

3階西病棟:田口弥生さん



我が家には60センチ水槽が数個、1つはカブト虫専用、1つはクワガタ専用(これらは脱走するので外で飼育、それぞれ何匹いるか不明、クワガタは寒い冬も冬眠し生きています)、1つはグッピー・金魚専用(グッピーは次々に増えたり減ったり忙しいが何十匹もうまれ、金魚はサクラコメットからでめきんと多種。夫の気分によって出入りが激しく友人の家や実家にいったり、庭に行ったり…。時には水槽が金魚パチになったり、土が砂や砂利、時にはビー玉へ変わったり忙しい) 1つは熱帯魚専用、ここにはテトラ(ネオン、カージナル、ブラック、ブルー、ゴールドなど7種類位)、巨大化したプレコ2匹、ヤマトヌマエビ数匹、コリドラス(パンダ、ジュリー、アオなど数種類)、タニシやクリーローチ(うちの子供達はアナコンダと呼んでいる)など総数50匹以上(結構きれいでもあるが…)小さい虫かごには、おかやどかり数匹(海水くさい…)もう一つにはちょっと大きいミヤマクワガタ1匹(これはカッコイイ)そしてそして、庭には石坪に金魚数匹、立派な水草つき、大きい鉢にザリガニ数匹、そして1年越しのミドリガメ1匹…いったい全部で何匹いるの??それもわからず夫と子供達が大事に育てています。(ここだけの話、某ショップのカブト虫と某ショップのザリガニは…)



研修がんばってください!

鹿児島県看護協会 認定看護管理者制度教育

*ファーストレベル教育

8/28～9/11、10/19～10/30 濱田知美師長

*セカンドレベル教育

9/15～12/11 (34日間) 長井砂都美師長

*感染管理(認定看護師教育課程)

北里大学看護キャリア開発・研究センター

10/1～3/31 中野智子師長



学会発表

サービス向上委員会の活動について9/22～23に福岡で開催された「日本医療マネジメント学会第8回九州・山口連合学会」で発表しました!

テーマ

「サービス向上委員会活動～外来患者満足度向上の要因～」

中村晋輔・久留須加寿美 ほか

看護研究発表会のお知らせ

平成21年11月14日(土) 14:00～16:00 会議室

※原稿締切りは10月14日です。

各部署でよりよい看護を目指して取り組んできた研究内容を発表する機会です。できるだけ参加しましょう!

編集後記

8月の衆議院選挙では民主党が圧勝し、鳩山首相のもと社民、国民新の三党による連立政権が発足しました。

医療や看護を巡る施策はどのようなのかまだ見えてきません。来年は診療報酬の改定があり、新人看護師研修に取り組んでいる病院には上乗せされる方向で検討されていたのですが…実現するのか? 7対1入院基本料もこのまま継続されるのか? 病院の経営に大きく関与することですので、皆さんも政治に関心を持ってニュース等ご覧ください!